

平成30年度 志木市の決算報告

問合せ／財政課 内線2253

平成30年度の決算が、令和元年志木市議会9月定例会で認定されました。
私たちが納めた税金がどのように使われ、また、市の財政がどのような状況にあるのかをお知らせします。

一般会計

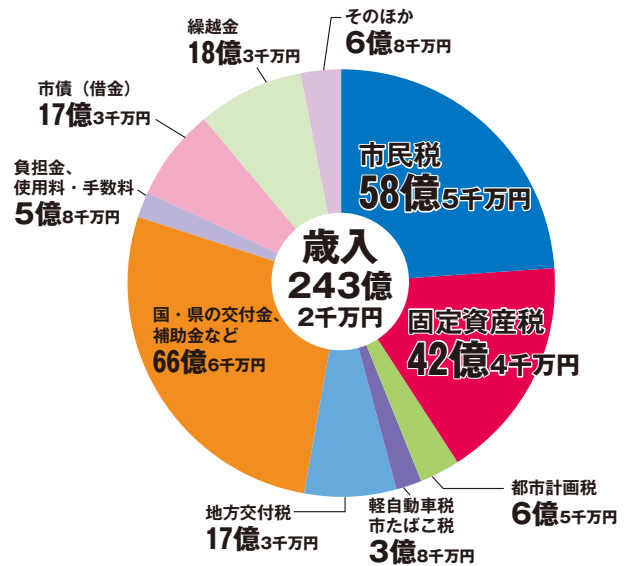
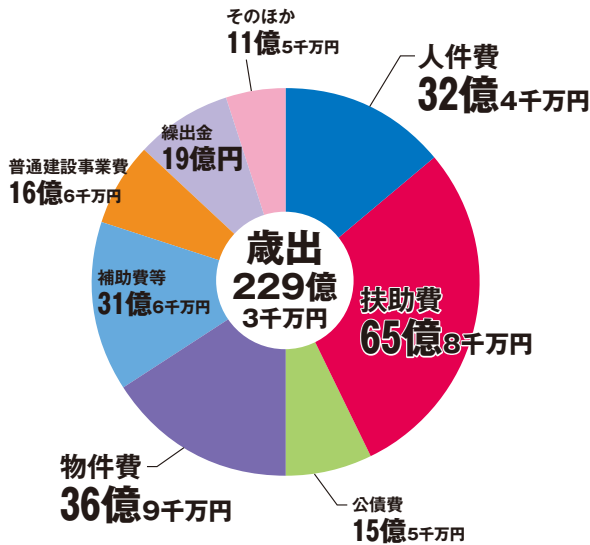
平成30年度の一般会計の決算額は、歳入が243億2千万円、歳出が229億3千万円になり、差引額13億9千万円となりました。

ここから、翌年度の事業に使うために繰り越すべき財源(約1千万円)を差し引いた額の13億8千万円(黒字額)が実質収支額となっており、前年度に比べると4億2千万円の減少となりました。この実質収支額は、令和元年度の歳入に繰り越されます。

また、市の貯金である財政調整基金の残高は、27億3千万円となっており、前年度に比べると1億6千万円の増加となりました。

市民1人あたりでは…
市税の負担……………14万5千円
市民サービスに使われたお金…30万円

※市税の負担は、市税収入額を人口76,365人(平成31年3月31日現在)で除した額
※市民サービスは、一般会計の歳出額を市民一人あたりに換算した額



※1千万円未満を四捨五入しています。そのため、合計があわない場合があります。

歳入

歳入の総額は、前年度に比べて、4億4千万円の増加となりました。

この増加の主な要因としては、市債が2億5千万円の減、県支出金が4千万円の減となったものの、繰越金が3億9千万円の増、税制改正により清算基準が見直しとなった地方消費税交付金が1億2千万円の増、小学校施設整備負担金の増などにより国庫支出金が9千万円の増となったことなどによるものです。

歳出

歳出の総額は、前年度に比べて、8億8千万円の増加となりました。

この増加の主な要因としては、退職手当負担金や時間外勤務手当の減などにより人件費が4千万円の減となったものの、公共施設安心安全基金積立金や財政調整基金積立金の増などにより積立金が7億9千万円の増となったことや、特定教育・保育施設及び特定地域型保育委託等給付費や障がい者自立支援介護・訓練等給付費の増などにより扶助費が1億1千万円の増となったことなどによるものです。

特別会計・企業会計

特別会計は、国民健康保険や介護保険など市が特定の事業を行う場合に一般会計と区別して設置し、その特定の歳入をもって特定の歳出に充てるものです。

企業会計は、独立採算制を原則とする企業の色彩の強い事業を行う場合に、法令や条例に基づいて設置するもので、本市では、水道事業や下水道事業が該当します。

◆平成30年度特別会計

会計名	歳入額(うち一般会計繰入金)	歳出額
国民健康保険	76億8千万円(3億3千万円)	74億円
志木駅東口地下駐車場事業	6千万円	5千万円
介護保険	45億8千万円(6億5千万円)	43億1千万円
後期高齢者医療	9億1千万円(1億7千万円)	8億8千万円

◆平成30年度企業会計

水道事業会計

収益的収入及び支出(税抜)	収入	支出	当期純利益
13億6,087万円	11億9,264万円	11億9,264万円	1億6,823万円
資本的収入及び支出(税込)	収入	支出	不足額
2億9,670万円	7億1,950万円	7億1,950万円	4億2,280万円

下水道事業会計

収益的収入及び支出(税抜)	収入	支出	当期純利益
20億266万円	17億5,315万円	17億5,315万円	2億4,951万円
資本的収入及び支出(税込)	収入	支出	不足額
5億748万円	8億6,362万円	8億6,362万円	3億5,614万円

※企業会計の表について…資本的収入及び支出において不足する額については、損益勘定留保資金などで補填しました。

市債残高の推移と 経常収支比率

市債(市の借金)残高は、企業会計の返済が進んだことに伴い、前年度より1億9千万円の減となりました。今後も、将来に役立つ財産形成のために、財政負担を考慮しながら計画的な借入と返済をしていきます。

経常収支比率は、定期的な収入(特定財源以外)の何割が、定期的な支出に使われたかを表します。平成30年度は前年度比で1.5ポイント悪化しました。

この比率が低いほど、市の独自事業に使えるお金が多くなり、この比率が90%を超えると、財政の硬直化が進んだ状態と考えられます。

◆平成30年度市債残高の推移

会計名	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末
一般会計	154億7千万円	160億円	162億7千万円
志木駅東口地下駐車場事業	1億8千万円	1億4千万円	1億円
水道事業	26億5千万円	24億4千万円	24億9千万円
下水道事業	56億円	50億7千万円	46億円
市全体	239億1千万円	236億5千万円	234億7千万円

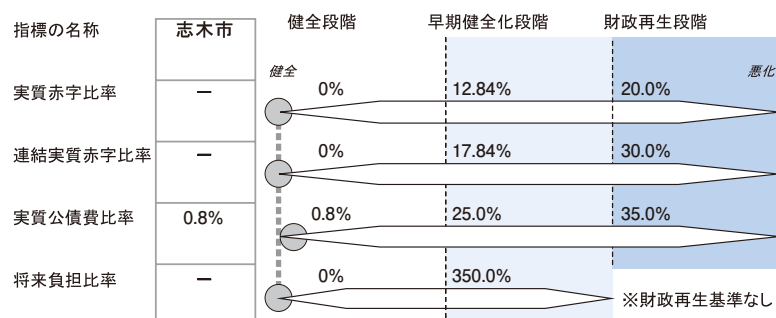
※1千万円未満を四捨五入しています。そのため合計があわない場合があります。

市民1人あたりでは…
借金残高………31万円(前年度比±0万円)

◆経常収支比率

平成29年度 93.0% → 平成30年度 94.5%

◆健全化判断比率



※「実質赤字比率」及び「連結実質赤字比率」、「将来負担比率」は、将来支払う借金の返済額などよりも地方交付税や基金などの将来の収入見込額の方が大きい場合、数値は表されません。

財政状況は健全

健全化判断比率の基準では、市の財政状況は健全を維持しています。しかし、これらの数値には、新庁舎建設をはじめとした公共施設の維持・更新経費や、借地となっている学校・公園用地を取得することになった場合に発生する費用などは含まれていません。したがって、引き続き健全な財政運営に向けて注意しながら、財政運営を進めていく必要があります。

◆資金不足比率

企業会計の名称	志木市	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.00%
下水道事業会計	—	

市ホームページでは、図表付きで財政状況を詳しく解説しています